

平成28年度 自己評価書

学校名	和歌山市立野崎西小学校
校長氏名	辻中 宏誠
作成日	平成29年3月3日

1 教育目標

自ら学ぶ意欲と強い信念を持ち、社会の変化に主体的に対応して
たくましく生きる心豊かな児童の育成に努める。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の方々が随時来校し、授業等の参観もしていただけるよう、積極的に情報発信を行う。 地域の教育資源や人材を活かした学校教育活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動全体を通して、道徳教育の充実を図り、生命や人権を大切に教育に取り組む。 特別支援教育を基に、一人一人を大切に教育を進める。 体験的な活動を多く取り入れ、心豊かな子どもを育てる。 全職員で全児童を育てることに、組織としての取り組む力を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の習得を図り、基礎学力の向上に努める。 一人一人を大切に、子どもが主体的に取り組む授業を目指す。 保護者と連携を取り、家庭における学習習慣を確立させる。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> HP更新をはじめ、毎月月初めに「学校だより」を保護者や地域の方に配布し、学校の情報発信を行った。 地域や関係機関の教育力を生かすために様々なゲストティーチャーを要請し、授業を実施した。 公民館と連携して作品展を開催し、交流を図った。 和歌山大学への避難訓練や公園の清掃活動を、関係機関や育友会、地域自治会と連携して行った。 学校開放月間での取組みを広く広報し、保護者のみならず地域の方々に学校に足を運んでいただき、学校への意見を頂くことができた。 和歌山大学から教育に意欲的な学生ボランティアを本年度は3人要請し、体力向上や学力向上、特別支援活動に活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じた道徳教育の資料の活用を行い、体験活動と道徳の授業を計画的、発展的に行なった。 社会、理科、総合的な学習、生活科で学年に応じた体験活動を積極的に取り入れ、協力する力や思いやりの心を育てた。 児童会活動を中心に地域の方々と協力しながら公園の清掃やボランティア活動に取り組んだ。 出前授業を計画的に活用し、各方面の専門家による授業を通して、各職業における苦労や達成感を身近なものにすることができた。 授業中ではもとより、休憩時間や放課後においても児童と活動をともにする機会を持ち、全職員で全児童を育てる学校運営を組織的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年やブロックの組織を活用して、積極的に授業を通して研修を行ってきた。また、児童の学力の実態を把握し、全教職員が共通理解した上で学力向上に取り組んできた。 体育科の研究授業にとどまらず、算数と国語の研究授業を現教で取り入れ、教員一人一人の授業力の向上に取り組んできた。 フォローアップⅡの指定を受け、県と市の教育委員会の協力を得ながら、学校全体で和歌山の授業基礎・基本3か条の定着を図ってきた。 保護者と連携し、基本的学習習慣の確立や家庭学習の定着に取り組んだ。
----------	--	---	--

取組の成果と課題【G】	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員・学校関係者評価委員会をはじめ、保護者や地域の方にも学校を訪問して頂き、率直なご意見をいただいた。そのことを謙虚に受け止めて、学校改革に活かしていく。 時期を定めて、学年に応じたゲストティーチャーを要請し、計画的に活用する必要がある。 避難訓練、公園の清掃活動、公民館と連携した作品展展示会など、関係機関や地域と連携した行事を毎年続けることで、より充実した活動にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを毎学期実施することで、小さな出来事でも早期発見し、指導をすることができた。また、定期的に生活指導部会を開催し、情報の共有を図ることができた。来年度もきめ細かい指導ができるよう、アンテナを高くし、いじめの防止に努めたい。 毎学期「いじめ防止」の取り組みを「学校便り特別号」で保護者・地域の方々に、学校の実態を知らせるとともに、会話を通して保護者・地域との連携を図ることができた。 体験学習は、児童の心身の成長を促すことを目標に、学年別に年間計画を立て、事前・事後の指導を綿密に行い、成果を上げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力テストでは、すべてにおいて平均を下回っていた。全職員で問題・課題を分析し、学習時に考えを書かせる時間を確保する重要性を確認した。 フォローアップⅡの指定を受け、年10回、算数・国語の研究授業・研究協議等を通して、学力向上のための個々の授業力向上を図ってきた。また、授業以外の学級経営の面でもご指導いただき、若い教員にとっては大変勉強になった。 「早寝・早起き・朝ごはん」のパンフレットを配布し、子どもたちの基本的学習習慣の確立をうながすとともに、「家庭学習の手引」を作成し、家庭での学習習慣づけを啓発してきたが、根気強く保護者への協力を呼びかけていく必要がある。
-------------	---	---	---

改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> 学校開放月間を中心に、日曜参観日だけではなく、日頃の様子を多くの保護者や地域の方に見ていただけるよう、学校や学年で行事を計画し、広報する。 ホームページの更新や学校便りにより一層力を入れて、多くの学校関係者の方々に学校での子どもたちの様子を知っていただけるよう情報発信を行う。 地域の人材を有効に活かし、学校へ招聘することで地域との連携をさらに深める。 和歌山大学への避難訓練を毎年見直ししながら、さらに関係機関や地域との連携を強化するとともに、一人でも避難できる心構えを育成していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ対策として、「いじめ防止基本マニュアル」に基づき、全教職員が事実を共有して共通認識の下、組織として対応する。 学年や季節に応じた体験的な活動は、6年間を見通した継続的な活動になるよう計画・立案し実施する。 規範意識を高めるために、教育活動全体を通して道徳教育や人権教育を充実させる。 情報モラル教育を、関係機関の協力を得ながら学年に応じて計画的・継続的に実施する。 「いじめアンケート」や日頃の細やかな観察を通して、教職員がよりアンテナを高くして情報を収集すると共に、早期発見に心掛け、保護者との連絡を密にし、学校と家庭の連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価問題やeライブラリを中心とした演習を屋上の時間に実施し、基礎・基本の定着を徹底する。 学力・体力向上委員会を中心に、児童の学力や体力の向上について話し合い、具体的な手立てを決め、学校が一丸となって共通理解のもとに取組を進める。 国語、算数主任が中心となり、計画的に公開授業や研究協議の時間を設け、個々の授業力向上に取り組む。 指導主事の助言の下、授業力の向上を目指して「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を徹底し、学力の向上を図る。 「家庭学習のてびき」と「早寝早起き朝ごはん」のリーフレットを見直し、家庭の協力を得るため、積極的に啓発していく。
---------	--	--	--

3 その他の課題

<ul style="list-style-type: none"> 校舎の老朽化が進み、保護者からも各所の改善を求める声が数多く寄せられている。トイレの改修を中心に、一つずつ改善していきたい。学校でできる修繕作業は、校務員を中心に全職員で取り組んでいる。他の項目については優先順位をつけて市に要請しながら環境整備を進めていく。 体育科の研究授業を足掛かりとして、県・市教委の指導主事の助言を得ながら、他の教科においても研修を深め、一人一人の教職員の授業力向上を目指し、学校全体で学力向上に向けての取り組みを進めていく。
--